

設置地域・設置場所についてのご注意

- ヒートポンプユニットは沸き上げ中および凍結防止運転中には運転音が発生します。また、沸き上げ中は冷風が出ますので、お客様および隣接するご近所様の寝室の近くやご近所様の迷惑になる場所には据え付けしないでください。
- [水道直圧給湯]フルオート標準タンク(高効率)は、生ごみなど臭いのある場所には貯湯ユニットを設置しないでください。快泡浴を使用したときに空気と一緒に臭いを吸い込む場合があります。
- 仕向地(設置地域)が一般地の機種は、寒冷地(北海道、青森、秋田、岩手を中心とした平成25年基準1・2・3地域)および外気温が-10℃を下回る地域には据え付けしないでください。
- 仕向地(設置地域)が寒冷地の機種は、外気温が-25℃を下回る地域には据え付けしないでください。
- 仕向地(設置地域)が寒冷地の貯湯ユニットは、北海道地域および外気温が-15℃を下回る地域では、屋内(機械室など)に据え付けてください。
- 塩害地(海浜地区で潮風が直接当たる場所)では本体が故障するおそれがあるため、耐塩害・耐重塩害仕様をご使用ください。
- 温泉地帯など特殊な場所では、本体が故障するおそれがあるため、据え付けしないでください。
- 雨や雪が降ったとき、給湯機が水につかるような所には据え付けしないでください。
- 貯湯ユニットは、水漏れがおきた場合、大きな被害につながるおそれがあります。特に屋内(機械室など)に据え付ける場合は、必ず完全防水処理、排水処理を施した床面に据え付け、貯湯ユニットの周囲を防水堤(100mm以上)で囲んでください。
- 貯湯ユニットは、原則として屋外据え付けです。屋内(機械室など)に据え付ける場合は、熱がこもって屋内(機械室など)の温度が上がったり貯湯ユニットから排出される膨張水によって貯湯ユニットや屋内(機械室など)の壁などに結露したり、これらによって、貯湯ユニットが故障するおそれがあるので通気口・換気扇を設けるなど対策をして室内の熱や湿気を排除してください。
- ヒートポンプユニットは屋外据え付けです。屋内(機械室など)に据え付けしないでください。
- ヒートポンプユニットの周囲に極力スペースを設け、壁や扉で音が反射しないように工夫してください。
- ヒートポンプユニットの近辺(上方向含む)に窓や床下通風口等の音の侵入口があれば極力距離をとってください。
- 積雪地域に据え付ける場合には、貯湯ユニットは、小屋がけをして雪がかかるのを防いでください。また、ヒートポンプユニットは高置台の上に据え付けるなど、雪が空気吸込口・吹出口から入らないようにしてください。また、屋根をつけて雪が積もらないようにしてください。
- 船舶、車両へ設置すると、振動や揺れにより機器が故障するおそれがありますので据え付けしないでください。

水質についてのご注意

- 水は、必ず水道法第4条に基づく水質基準に関する省令の水質基準(厚生労働省令第101号)に適合した水をご使用ください。また、塩分、石灰分、その他不純物が使用水に含まれていたり、酸性水質の地域では、エコキュートの使用を避けてください。水質によっては、貯湯ユニット、ヒートポンプユニット、減圧弁、逃し弁、熱交換器等の寿命が通常より短くなる場合があります。特に、井戸水、地下水、温泉水では、機器の故障のおそれがありますので使用できません。水質基準に適合した水道水であっても総硬度100mg/L以上の硬度の高い水質または遊離炭酸20mg/L以上の水質の場合は、熱交換器等の寿命が、通常より短くなる場合がありますので[水道直圧給湯]フルオート標準タンク(井戸水対応・井戸水対応 寒冷地仕様)のご使用をおすすめします。

[水道直圧給湯]フルオート 標準タンク(井戸水対応・井戸水対応 寒冷地仕様)で使用できる水質についてのご注意

- 水は、必ず水道法第4条に基づく水質基準に関する省令の水質基準(厚生労働省令第101号)に適合し、遊離炭酸:60mg/L以下、硬度:200mg/L以下の水をご使用ください。これに外れた場合、機器の故障につながる場合があります。また保証期間内であっても無償保証が受けられません。
- 水質(遊離炭酸・硬度)を調べるための「簡易水質チェックキットWQC-KIT(別売)」を用意していますので、必ず水質を確認してください。水質チェックシートは、保証書とあわせて保管してください(水質チェックシートの保管がない場合は、無償保証が受けられない場合があります)。

エコキュート使用上に関するご注意

- 次の方は[快泡浴]機能を使用しないでください。医師から入浴を禁じられている方・妊産婦・体調の悪い方・血圧の高い方・心臓疾患のある方・お酒を飲んでいる方・睡眠薬を服用された方。※体調に異常をきたすおそれがあります。
- [快泡浴]運転中は浴そう内に潜らないでください。ふろ循環アダプターの吸い込み口に髪の毛が吸い込まれ、おぼれるなど思わぬ事故の原因となります。特に子どもの入浴に注意してください。吸い込み口のカバーなどが、ゆるんだ状態または外れた状態で運転しないでください。
- シングルレバー混合水栓、手元スイッチストップシャワー・マッサージシャワーなど多機能シャワーヘッドを使用すると、流量が少なくなることがあります。
- 浴室、台所、洗面所などで2か所以上同時にお湯を使用すると、流量が少なくなることがあります。
- 混合水栓および浴そう循環口からの給湯温度は、配管からの放熱により、設定温度より低めになることがあります。
- 台所などの手元でお湯と水を混合せず、お湯を使用する場合、給湯温度が、ばらつく場合があります。
- 混合水栓を開けても、すぐにお湯が出ないことがあります。
- 硫黄、酸、アルカリなどを含んだ入浴剤や、洗剤は、熱交換器などを腐食する原因となりますので、浴そうで使用しないでください。入浴剤についてはカタログもご覧ください。
- 季節別時間帯別電灯契約または、時間帯別電灯契約専用です(深夜電力契約は使用できません)。また、時間帯と電気料金単価は、各電力会社によって異なります。
- リモコンの設定時刻がずれていると、電気料金が高くなります。
- 貯湯ユニット内のお湯は放熱によって少しずつ冷めます。
- 沸き上げ時間帯に入浴などでお湯を使用した場合、設定湯温まで沸き上がらずに翌日の湯量不足の原因になる場合があります。
- 断水時は給湯・湯はりはできません。
- 1日に使用できるお湯の量には限りがあります。流しっぱなしでのご使用は避け、こまめに止めることでお湯を上手にお使いください。
- 前日の残り湯の追いだし(沸かし直し)や長時間の保温を行うとタンク内部の湯温が下がり、湯切れするおそれがあります。タンクに蓄えた熱を効率的に使う方法として下記をおすすめします。
 - ①前日の残り湯の沸かし直しをせず、新たに湯はりを行う。
 - ②保温時間はできるだけ短くし、浴そうの湯を温めるときは高温さし湯を使う。
- お湯が足りなくなってしまうと、沸き上げに時間がかかるためすぐには追いだしはできません。お湯がなくなってしまうと、「沸き増し」ボタンを押しても、追いだしができるのは数時間後となる場合がありますので早めに沸き上げをお願いします。

青い汚れについてのお知らせおよびお手入れ方法

- 浴そうの水が青く見えたり、タオル・浴そう壁などが青くなる場合があります。これは水中に含まれるわずかな銅イオンと、石けんなどに含まれる脂肪酸とが反応して起こるもので、人体に害はありません。青い汚れは、給湯機の使い始めの時期に発生しやすく、時間経過とともに発生しにくくなります。
- 汚れを放置しますと取れにくくなりますので、浴そう壁は浴室用洗剤で掃除してください。また、タオルや布の場合は70~80℃のお湯に食酢を混ぜて10~15%溶液を作り、浸漬すると脱色します。

定期点検

- 減圧弁、逃し弁等は消耗部品です。使用水質によっては、3年程度で消耗する場合があります。点検の結果、部品交換が必要なものは、有償で交換します。万一、水漏れした場合は水道料金や電気代が高くなります。
- 長く安心してお使いいただくために、取扱説明書の内容に従って定期的にお手入れと日常点検を行ってください。
- 約3~4年に一度、専門技術者による定期点検を行ってください。定期点検については、据付工事店・販売店・設備専門店・サービス会社にご相談ください。

施工に関するご注意

- 工事説明書に従い、施工を行ってください。
- Rシリーズ貯湯ユニット(フルオート薄型タンク除く)の側面・背面外板は交換できませんので、傷が付かないよう取扱いに注意してください。
- 貯湯ユニットは、必ずアンカーボルトで固定してください。また、2階以上に据え付ける場合は、付属の転倒防止金具で上部を固定してください。Rシリーズは別売品の上部固定金具で上部を固定してください。地震などにより倒れてケガをするおそれがあります。
- Rシリーズ460L、370Lの貯湯ユニット(フルオート薄型タンク除く)において、耐震クラスSに対応するためおよび、Rシリーズ560Lの貯湯ユニットにおいて耐震クラスAに対応するためには、アンカーボルトの埋め込み深さを80mm以上で施工してください。
- リモコンは、他の電子機器と十分離して設置してください。インターホン使用時に雑音が生じることがあります。特にドアホン親機からは、上下左右30cm以上離して設置してください。
- 本体は、テレビ・ラジオ・無線などのアンテナより3m以上離してください。
- 既設配管に接続する場合は、配管の水漏れに注意してください。老朽化した配管は、給湯圧力の変化により水漏れをおこすおそれがあります(特に、電気温水器から[水道直圧給湯]に変更した場合)。
- 太陽熱温水器から貯湯ユニットへの給水は行わないでください。
- 貯湯ユニットの排水口からは、最大20L/分程度排水されますので、十分排水できる排水工事を行ってください。
- 給水元圧は、200kPa以上を確保してください([水道直圧給湯]、フルオート薄型タンクの場合は300kPa以上をおすすめします)。
- 給水元圧が500kPa以上ある場合は、給湯機への給水圧が500kPa以下になるように減圧弁を取り付けてください。
- ヒートポンプユニットは、運転中に結露水が排水されますので、必ず排水工事を行ってください。ただし、寒冷地の場合は、排水管の接続をしないでください。水平に据え付け、結露水の排水を確認してください。
- 現地排水管には必ず排水トラップを設けてください。排水トラップがないと浄化槽などから下水ガスが逆流して給湯機が著しく腐食し故障の原因となります。また、排水トラップは耐熱性のある部材を使用してください。
- ヒートポンプユニットの鳥居配管は1か所までとしてください。また、高低差は各機種の指定に従ってください。
- フルオート機能(井戸水対応除く)の機種は、給湯専用として使用しないでください。
- フルオート機能の機種の適用最大浴そうサイズは400Lです。
- 据え付け後、凍結するおそれのある地域で長期間使用しない場合は、完全な水抜き作業を行ってください。
- 貯湯ユニットを屋内小空間に据え付ける場合は、脚カバー、配管カバーは使用しないでください(Rシリーズは配管カバーを使用し、脚カバーは使用しないでください)。また、排水管は給湯機の真下に設けないでください。
- [快泡浴]を使用する場合は、必ず快泡浴用ふろ循環アダプター配管キット(別売)をお使いください。これ以外のふろ循環アダプターは使用しないでください。

配管の施工に関するご注意

- 上水道に直結する場合は、設置する地域の水道条例に基づき、認定水道工事が施工してください。
- 配管材料は、耐熱性・耐水性・耐食性のある材料を使用してください。
- 樹脂管やその被覆材は日光(紫外線)により劣化し、水漏れの原因になりますので遮光テープなどにより必ず遮光してください。
- 保温工事があっても外気温が0℃以下になると配管は凍結します。機器や配管が破損する場合がありますので、凍結が予想されるすべての配管には、工事説明書に従い凍結防止ヒーターの取付など凍結防止工事を行ってください。

〈給湯配管〉

- 階下給湯を行う場合は、階下の混合水栓と貯湯ユニット設置面までの高さは-3.5m以内としてください([水道直圧給湯]は、-3.5m以上も可能です)。
- すべての混合水栓は、必ず逆止弁付混合水栓を使用してください。逆止弁が付いていない混合水栓を使用した場合や逆止弁付混合水栓が故障した場合は、お湯が出ないことがあります。
- 安全性を確保するため、シャワー給湯には、必ずサーモスタット付混合水栓(逆止弁付)を使用してください。
- ウォーターハンマー現象が発生する場合は、水撃防止装置を取り付けてください。

〈ふろ配管〉

- 浴そうの接続は1か所のみです。2か所以上の接続はできません。
- ふろ配管は15Aで長さは15m10曲がり以内にしてください。その他の配管径の場合は次の通りとしてください。
呼径13Aの架橋ポリエチレン管の場合は15m10曲がり以内。φ12.7mm銅管の場合は6m5曲がり以内。なお、15Aを超える配管は使用しないでください。[水道直圧給湯]フルオート標準タンク(高効率)で快泡浴を使用する場合は、次の通りとしてください。日立純正品の快泡浴用ふろ循環アダプターキットのふろ配管を使用。配管径15A銅管の場合は、15m10曲がり以内。
- ふろ配管へのフレキシブル管の使用は避けてください。やむを得ず使用する場合でも片道0.5m以内としてください(空気溜まり防止のため)。
- ふろ循環アダプター(フルオート用)は日立純正品をお使いください。

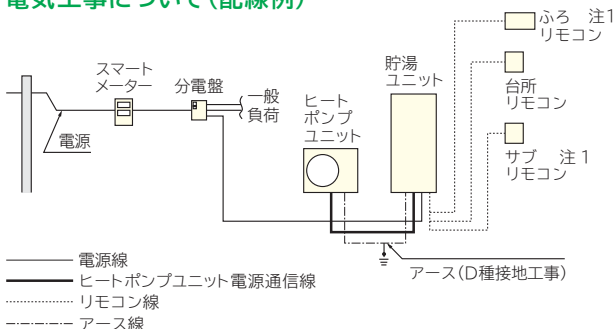
〈ヒートポンプ配管〉

- 95℃以上の耐熱性・耐食性を有する架橋ポリエチレン管・金属強化ポリエチレン管などを使用してください。
- ゴムホース類やふろ用樹脂配管は、使用しないでください。故障や水漏れの原因となります。

電気工事に関するご注意

- 電気工事は、電気設備技術基準および内線規程に基づいて、必ず指定電気工事業者が行ってください。
- 保護アース(接地)工事は、万一の感電事故防止のため、電気設備技術基準および内線規程に基づいて、必ず電気工事士によるD種(第3種)接地工事を行ってください。
- 引込線取付点とジョイントボックス間のケーブルの太さは、一般負荷とエコキュートの負荷を見込んだサイズにしてください。
- ブレーカー容量(配線用遮断器)および電線(ケーブル)の太さは、内線規程に定められたものを使用してください。
- リモコンを接続しないと動作しませんので、必ずリモコンを接続して使用してください。
- リモコンコードは日立純正品などの2芯シールド付をお使いください。

電気工事について(配線例)



●ブレーカー定格とケーブルの太さ・種類

	電 源 ブレーカー	電 源 線	ヒートポンプ ユ ニ ッ ト 電 源 通 信 線	アース線
[水道直圧給湯] フルオート	単相200V、 20A	3.5mm ² (φ2.0mm)	3芯 φ2.0mm (VVF)	φ1.6mm (IV) (日立 純正品など シールド付 2芯 0.3mm ²)
フルオート				
給湯専用				

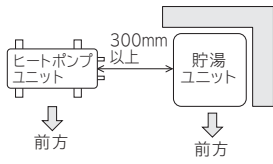
以上の内容および取扱説明書・工事説明書の内容を守らなかったために発生した不具合については、保証期間内であっても無償保証の対象外となりますので、十分注意してください。

据付時の制約事項

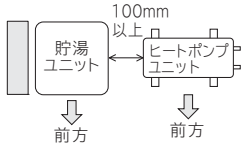
- [水道直圧給湯]フルオート 標準タンク(高効率) ●[水道直圧給湯]フルオート 標準タンク ●[水道直圧給湯]フルオート 標準タンク(寒冷地仕様)
- [水道直圧給湯]フルオート 標準タンク(井戸水対応) ●[水道直圧給湯]フルオート 標準タンク(井戸水対応 寒冷地仕様) ●フルオート 標準タンク
- フルオート 標準タンク(寒冷地仕様) ●給湯専用(オートストップ機能付) ●給湯専用

ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間の据付制約

- 標準配置 [上から見た図]

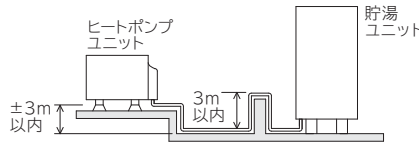


- 逆配置 [上から見た図]



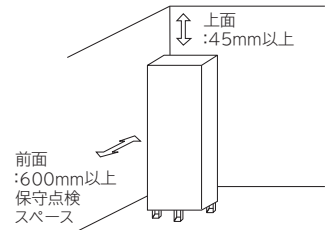
ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間の据付制約

[横から見た図]



配管全長：15m以内
 曲り箇所：10か所まで
 高低差：±3m以内
 鳥居配管：3m以内(1か所まで)
 配管材質：95℃以上の耐熱性、耐食性を有するもの(銅管等)
 配管サイズ：φ12.7mm、ペアチューブは使用不可

貯湯ユニットの据付制約



※貯湯ユニットは、北海道地域および外気温が-15℃を下回る地域では、屋内に設置してください。

●フルオート 薄型タンク

ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間の据付制約

- 標準配置 [上から見た図]

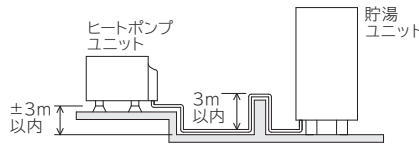


- 逆配置 [上から見た図]



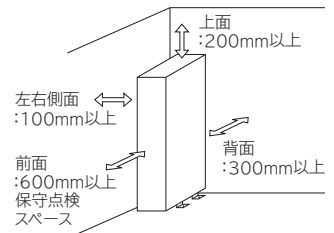
ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間の据付制約

[横から見た図]



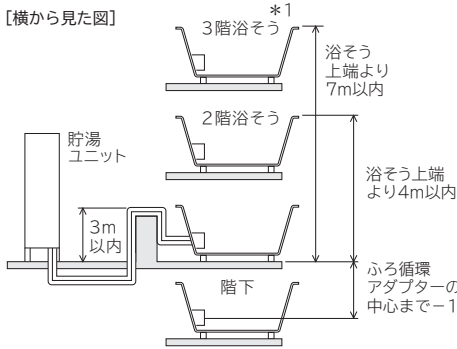
配管全長：15m以内
 曲り箇所：5か所まで
 高低差：±3m以内
 鳥居配管：3m以内(1か所まで)
 配管材質：95℃以上の耐熱性、耐食性を有するもの(銅管等)
 配管サイズ：φ12.7mm、ペアチューブは使用不可

貯湯ユニットの据付制約



貯湯ユニットと浴そう間の据付制約

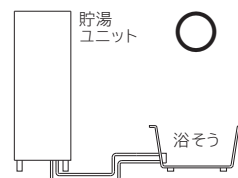
[横から見た図]



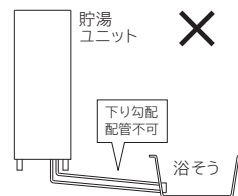
配管全長：15m以内
 曲り箇所：10か所まで
 鳥居配管：3m以内(1か所まで)

ふる配管施工例

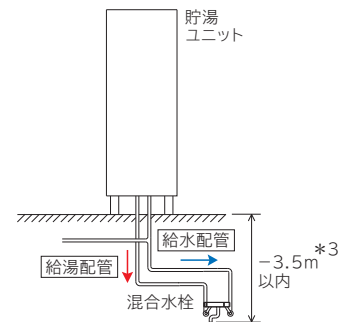
正しい施工例



誤った施工例



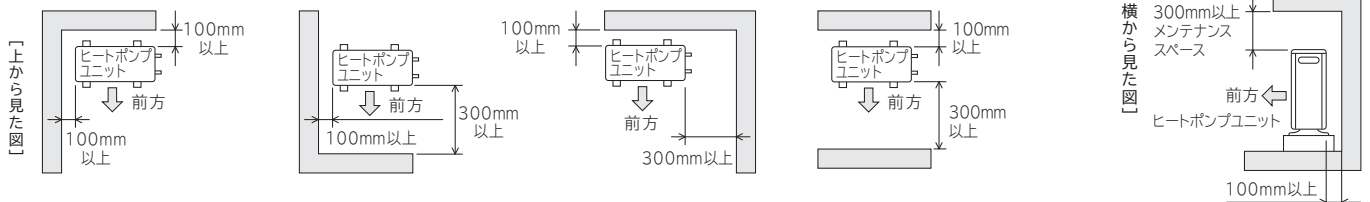
貯湯ユニットと混合水栓との据付制約



※階下給湯を行う場合は、階下の混合水栓と貯湯ユニット設置面までの高さは、-3.5m以内としてください。([水道直圧給湯]は、-3.5m以上も可能です)。

*1 [水道直圧給湯]とフルオート 薄型タンクのみ対応。給水元圧300kPa以上を確保してください。*2 フルオート 薄型タンクは-1.5m以内としてください。*3 フルオート 薄型タンクは階下給湯不可です。
 ※ふる循環アダプターの中心より、1m(フルオート 薄型タンクのみ1.5m)を超える階下のふる配管はできません。※フルオート 標準タンク、フルオート 標準タンク(寒冷地仕様)は、浴そう上端が4mを超える場合は、ふる配管はできません。

ヒートポンプユニット単体の据付制約



※3方向に障害物がある場合は、設置不可です。